

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	鹿児島工学院専門学校
設置者名	学校法人 川島学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	電気技術工学科	夜・通信	9	7	
	自動車工学科	夜・通信	9	7	
	1級自動車工学科(2年課程)	夜・通信	7	7	
	1級自動車工学科(4年課程)	夜・通信	20	13	
	建築デザイン学科	夜・通信	8	7	
商業実務専門課程	ライフデザイン学科	夜・通信	8	7	
適格専攻科	1級自動車専攻科(2年課程)	夜・通信	19	7	
備考					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鹿児島工学院専門学校
設置者名	学校法人 川島学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程(カリキュラム)の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書(シラバス)については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 	
授業計画書の公表方法	https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2) 当該科目の出席率が80%未満の者 ・考查資格 <ul style="list-style-type: none"> 科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考查の対象とならない。よって成績いかんにかかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。 ・追試験 <ul style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない(留年)。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修科目の成績評価を点数化し、全履修科目の平均点を算出する。 優：3点，良：2点，可：1点，不可0点 ・客観的な指標として、全科目の合計点を算出し、成績分布を示す。 	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。 2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。 3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。 4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。 5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業判定基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の成績評価がすべて可以上。 2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	鹿児島工学院専門学校
設置者名	学校法人 川島学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本校事務室にて閲覧による情報公開
収支計算書又は損益計算書	本校事務室にて閲覧による情報公開
財産目録	本校事務室にて閲覧による情報公開
事業報告書	本校事務室にて閲覧による情報公開
監事による監査報告（書）	本校事務室にて閲覧による情報公開

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気技術工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	85	62		23		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		44人	0人	4人	1人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者

- 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者
2) 当該科目の出席率が 80%未満の者

・ 考査資格

科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象とならない。よって成績いかにかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。

・ 追試験

- a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。
- b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。
- c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。
- d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。

・ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。

1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。
2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。
3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。
4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。
5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。

・ 卒業判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の 15%以下。
3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。

・ 進級判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の 15%以下。
3. 進級の可否は、進級判定会において決定する。

学修支援等

（概要）

各クラスに、担任・副担任を 1 名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	15人 (94%)	1人 (6%)
（主な就職、業界等） 電気工事，電気工事施工管理，電気設備保安管理			
（就職指導内容） 業界・企業研究，進路相談，採用試験対策，面接指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） <ul style="list-style-type: none"> ・第二種電気工事士（卒業時に付与） ・第一級陸上無線技術士 ・第一種電気工事士 ・2級電気工事施工管理技士補 			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38人	2人	5.3%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による個別面談，保護者との連携・面談，学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	76	38		38		
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
70人	41人	0人	6人	1人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程 (カリキュラム) の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書 (シラバス) については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2) 当該科目の出席率が80%未満の者 ・考查資格 <p>科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考查の対象とならない。よって成績いかにかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。</p> ・追試験 <ol style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない (留年)。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 	
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定 (ディプロマポリシー) に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>	

<p>対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。 <p>・卒業判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 所定の成績評価がすべて可以上。 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。 <p>・進級判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 所定の成績評価がすべて可以上。 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 進級の可否は、進級判定会において決定する。 <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	7人 (23%)	23人 (77%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
自動車ディーラー、自動車整備業界、産業機械整備業界 (進学者：本校1級自動車専攻科への進学)			
(就職指導内容)			
業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> 二級ガソリン自動車整備士 二級自動車シャシ整備士 電気自動車等の整備業務に係る特別教育 		<ul style="list-style-type: none"> 二級ジーゼル自動車整備士 二級二輪自動車整備士 	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	1級自動車工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	61 (1,800)	13 (280)		48 (1,520)		
学生総定員 数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		9人	0人	6人	1人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

- ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。
- ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。
- ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。

- ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。
- ・評価基準
 - 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者
 - 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者
 - 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者
 - 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者
2) 当該科目の出席率が80%未満の者
- ・考査資格
 - 科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象とならない。よって成績いかんにかかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。
- ・追試験
 - a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。
 - b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。
 - c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。
 - d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。

- ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標

の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。

1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。
2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。
3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。
4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。
5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。

・卒業判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。
3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。

・進級判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。
3. 進級の可否は、進級判定会において決定する。

学修支援等

(概要)

各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	9人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車ディーラー、自動車整備業界			
(就職指導内容) 業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) <ul style="list-style-type: none"> ・一級小型自動車整備士 ・二級二輪自動車整備士 ・職業訓練指導員 			
(備考) (任意記載事項) ()内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)に基づき、授業時数を記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業		工業専門課程	1級自動車工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4年	昼間	145	57		88			
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	18人	0人	6人	1人	7人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2) 当該科目の出席率が80%未満の者 ・考查資格 <p>科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考查の対象とならない。よって成績いかにかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。</p> ・追試験 <ul style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 					
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>					

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	1人	10%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業		工業専門課程	建築デザイン学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	106	105		1			
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
60人	64人	0人	4人	9人	13人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1）授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2）当該科目の出席率が80%未満の者 ・考査資格 <p>科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象とならない。よって成績いかににかかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。</p> ・追試験 <ul style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 					
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>					

<p>対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。 2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。 3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。 4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。 5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。 <p>・卒業判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の成績評価がすべて可以上。 2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。 <p>・進級判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の成績評価がすべて可以上。 2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 3. 進級の可否は、進級判定会において決定する。 <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	18人 (62%)	11人 (38%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 設計事務所、ハウスメーカー、施工会社等 (進学者：本校 建築士専攻科への進学)			
(就職指導内容) 業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> ・二級建築士 ・宅地建物取引士 ・インテリアコーディネーター 		<ul style="list-style-type: none"> ・2級建築施工管理技士補 ・福祉住環境コーディネーター (2級) ・建築CAD検定 (2級) 	

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ライフデザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	82	56		26		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		13人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2) 当該科目の出席率が80%未満の者 ・考查資格 <ul style="list-style-type: none"> 科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考查の対象とならない。よって成績いかににかかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。 ・追試験 <ul style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>	

対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。

1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。
2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。
3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。
4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。
5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。

・卒業判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。
3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。

・進級判定基準

1. 所定の成績評価がすべて可以上。
2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。
3. 進級の可否は、進級判定会において決定する。

学修支援等

(概要)

各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	1人	11%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専攻科	建築士専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	45	36		9		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		18人	0人	4人	1人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1）授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2）当該科目の出席率が80%未満の者 ・考査資格 <ul style="list-style-type: none"> 科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象とならない。よって成績いかににかかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。 ・追試験 <ol style="list-style-type: none"> a. 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 b. 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 c. 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。 d. 追試験の合格者は原則として可評価とする。 					
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>					

<p>対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。 2. 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。 3. 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。 4. 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。 5. 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。 <p>・卒業判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の成績評価がすべて可以上。 2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 3. 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。 <p>・進級判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 所定の成績評価がすべて可以上。 2. 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 3. 進級の可否は、進級判定会において決定する。 <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 設計事務所、ハウスメーカー、総合建設業等			
(就職指導内容) 業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等))			
<ul style="list-style-type: none"> ・二級建築士 ・木造建築士 ・宅地建物取引士 		<ul style="list-style-type: none"> ・2級建築施工管理技士補 ・建築CAD検定(2級) ・福祉住環境コーディネーター(2級) 	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専攻科	1級自動車専攻科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62	13	0	49		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		7人	0人	6人	1人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程（カリキュラム）の作成については、各授業科目の到達目標等、前年度の実施状況や成果を検証し、かつ、業界ニーズを踏まえて各学科で検討した後、学内の検討委員会、学校長の承認のもと決定する。 ・授業計画書（シラバス）については、確定したカリキュラムをもとに、各授業科目担当が作成し、学科内および教務部でチェックした後、学校長の承認のもと、ホームページにて公開するとともに、学生に授業開始時に周知している。 ・授業は、講義および実習を中心とし、学習の定着を図る事後の課題等を展開。 	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>成績評価・単位認定については、学則および「進級・卒業認定要件」に基づき、日常の授業態度、出席率、課題の提出状況、期末試験等を総合的に判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は優、良、可、不可の4段階とする。 ・評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 優：授業内容に対する理解および日常の授業態度が著しく優秀な者 良：授業内容に対する理解および日常の授業態度が良好な者 可：授業内容に対する理解および日常の授業態度が普通の者 不可：1) 授業内容に対する理解および日常の授業態度が劣る者 2) 当該科目の出席率が80%未満の者 ・考查資格 <ul style="list-style-type: none"> 科目終了時に当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考查の対象とならない。よって成績いかにかわらず、不可評価となるため、追試験を受験する。 ・追試験 <ol style="list-style-type: none"> 理由なく試験を受けなかった者には追試験を認めない。 不可評価の者には追試験を行い学習の機会を与える。 追試験に合格しない者は卒業・進級を認めない（留年）。 追試験の合格者は原則として可評価とする。 	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>本校教育理念のもと定めた卒業認定（ディプロマポリシー）に基づき、ホームページに公表するとともに適切に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） <p>本校は、「社会に貢献できる産業人の育成」という建学の精神のもと、その教育目標の実現を目指し、以下の能力・態度を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に</p>	

<p>対し、卒業を認定し、専門士の称号を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度化・多様化する社会に即応できる専門知識と技術を身に付けている。 常に専門知識の向上に励み、自ら課題発見・解決に取り組むことができる。 職業人に必要な幅広い教養と倫理観を持ち、他者を思いやる豊かな人間性を備えている。 他者の価値観を受容・理解し、連携・協働しながら社会貢献に努める意識を持っている。 常に自己を律し、生涯を通じての心身ともに健全な人格の形成へ高い意欲を持っている。 <p>・卒業判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 所定の成績評価がすべて可以上。 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 卒業の可否は、卒業判定会において決定する。 <p>・進級判定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 所定の成績評価がすべて可以上。 年間欠席日数が出席すべき日数の15%以下。 進級の可否は、進級判定会において決定する。 <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各クラスに、担任・副担任を1名ずつ配置し、学生の出席状況・補習授業・進路支援等を個別に行っている。また、定期的な個別面談、保護者への連絡・面談等を実施。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0%)	9人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車ディーラー、自動車整備業界			
(就職指導内容) 業界・企業研究、進路相談、採用試験対策、面接指導			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
・一級小型自動車整備士		・二級二輪自動車整備士	
・職業訓練指導員			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個別面談, 保護者との連携・面談, 学習面での補講等

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
電気技術工学科	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
自動車工学科	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
1級自動車工学科 (2年課程)	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
1級自動車工学科 (4年課程)	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
建築デザイン学科	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
ライフデザイン学科	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
建築士専攻科	100,000 円	360,000 円	220,000 円	
1級自動車専攻科	150,000 円	580,000 円	400,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) 実践的かつ質の高い職業教育を行うため、教育課程・学習指導・進路指導・組織運営等について自己点検評価を実施し、設置学科の関連業界等との連携協力体制のもと、外部委員による学校関係者評価を行い、公表するとともに客観性をもってこの評価に沿った改善を図る。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
(一社)鹿児島県電設協会/会長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
(一社)鹿児島県電設協会/副会長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
(一社)鹿児島県自動車整備振興会/技術教育部長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
鹿児島ダイハツ販売(株)/常務取締役管理本部長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
(一社)鹿児島県建築協会/専務理事	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
(株)東条設計/常務取締役	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
社会医療法人緑泉会/法人本部人事統括部副部長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
南国交通株式会社/取締役管理本部部長	R7.4.1~R9.3.31	業界関係者
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/		
(備考)		
第三者評価未実施 (令和12年までに実施予定)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kougakuin.ac.jp/disclosure/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H146310000109
学校名	鹿児島工学院専門学校
設置者名	学校法人 川島学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		86人 (27) 人	86人 (27) 人	86人 (27) 人
内 訳	第Ⅰ区分	12人	12人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅱ区分	13人	13人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅲ区分	20人	19人	
	(うち多子世帯)	(- 人)	(- 人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	30人	32人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	- 人	
	区分外 (多子世帯)	- 人	- 人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				- 人 (0) 人
合計 (年間)				86人 (29) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	人	前半期	0人 後半期
			0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	16人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	16人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。